

青嶺

Seirei

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

足早に過ぎていく 三学期に感じる 喜びと寂しさ

今朝、生徒たちを迎えていた時に、日が長くなってきたことを感じました。そういうえば昨年も、ちょうどこの時期に登校中に日がさしてきて寒い中にも春の訪れを感じ、別れの予感に寂しさを感じたものでした。三年生はそんな感傷に浸る間もなく一般選抜入試に向けての努力を日々重ねていますし、進路が先に決まった人たちも、自分ができる役割を果たしながら、やはり不安と戦っていることと思います。そんな落ち着かない時期だからこそ、相手を思いやる気持ちを忘れずに、仲間たちと一丸になつて前向きに頑張つてほしいと願っています。それぞれの学年の成長を実感する喜びと、少しずつ近づいてくる別れに、一抹の寂しさを隠し切れない今日この頃です。

二つの授業を参観して

先日、二つの授業を参観しました。二年生のキャリア教育の授業では、担任自身のこれまでの経歴を紹介し、生徒たちそれぞれが自分の将来について想像したり迷ったりしながら意見を交わし合っていました。みんなが真剣に考えた、とても中身が濃い時間でした。担任が語ったアルバイト経験はとても大きな財産だと思えます。頭では分かっているつもりでも実際にやってみると全く違うということがたくさんあります。生徒たちは、経験はまだありませんが、家族や周りの大人たちとの関わりの中で学んだのでしょう。その職に必要な資格や、備えるべき資質、実現のためには何をすべきかを生徒たちなりに理解しているようでした。「はたらく人プロジェクト」もそうですが、生徒たちに刺激を与える機会をできるだけ設定し、目標をもって豊かな人生を送ってほしいとあらためて願う時間でした。一年生はストレスにどう向き合い、どう対処するかについて

でした。生徒たちは家で好きな事(ゲーム・読書・寝る)をするのがいちばんのストレス解消法のようにでした。生徒たちにとって安心して過ごせる場所が家であり、平日頃からご家族が大きな愛情で関わってくださっていることを感じました。

ストレスは生きている限り避けられないのですが、内容によつて「向かうべきもの」と「避けるべきもの」に分けられると思います。また「自分の努力で乗り越えられるもの」と「自分ではどうすることもできないもの」があります。「過去と他人は変えられないが自分と未来は変えられる」と良く言われます。ストレスの原因である「ストレッサー」が何かを見極め、向かうべきか、避けてかわすべきかを判断し、適切に対処しましょう。困ったときや苦しい時には、一人で抱え込まないようにしてほしいです。一緒に考えますので先生たちやスクーールカウンセラー、ソーシャルワーカーに是非相談して下さい。*****

『読む』二つの複雑さ

1「読む」ということは大変なことなのだ。大人にとつては「読めること」は当たり前のことと思つている。しかし「読み」は気が遠くなるほどの複雑な認知過程を並行に、しかもものすごいスピードで実行することを要求する。

2読むことを学び始めた子どもが最初にすることは、ひとつひとつの文字を画像としてとらえ区別することなのだ。細かな線の区別も大事だ。文字を「読む」ためには細かく視覚的な区別をし、文字の形を正確に記憶することが先ず第一歩だがこの段階ですでに子どもは悪戦苦闘しているのである。

3子どもの読みの学習はひとつひとつの文字を音に変換するところから始まる。読みの初心者で、まだ一文字一文字を確認しながら認識している段階の子どもは、画像としての文字を読み取るのには、いっばいいっばいで、他の必要な作業をする余裕はない。しかも、文字の認識ができただけでは読みは成立しない。

文字認識の次の段階は特定の文字の並びを単語として認識することだ。これができるようになるのと、記憶に蓄えた文字パターンを音と対応づけることにチャレンジすることになる。音の処理は、側頭葉で行う。

4単語を音にしていって、二文字目くらいになると音で知っている単語を想起できることが初期の読み手にはとても大事だ。それができないといくら画像としての文字の認識と文字ごとの音の認識が完璧でも単語の意味にたどり着くことはできない。つまり文字を音変換して「読める」ためにはその単語を「知っている」必要があるということである。

逆に、音声で覚えた「意味を知っている」単語が記憶にあれば、文字↓音の変換が完全に出来なくても、「読める」(つまり書かれた単語の意味が分かる)ことも十分ありうるのである。このことは、何を意味するか。読むことは始める前、つまり文字を覚えることを始める前に、どれだけ耳から聴いた単語をたくさん知っているかが読めるようになるために大事なのだ(『学力喪失』今井むつみ著) 生徒たちが言葉に対して感性が豊かであり、しっかりと話を聴けるのは、幼少期から読み語りを通して言葉のシャワーを浴び、地域ぐるみで育ててもらっているためだと改めて納得できました。先日は今年度最後の読み語りが行われ、「おはなしどんぐり」の皆様から卒業生に向けてあたたかい言葉を頂きました。これまでの多くのお話は卒業していく三年生の胸にずっと残り続けるでしょう。そして次は与える側として成長した姿を見せてくれるでしょう。皆様本当にありがとうございました。